

令和元年度 決算のあらまし

まちの 家計簿



精華町の未来のために

精華町の決算状況をお知らせします



精華町広報キャラクター
京町セイカ

もくじ

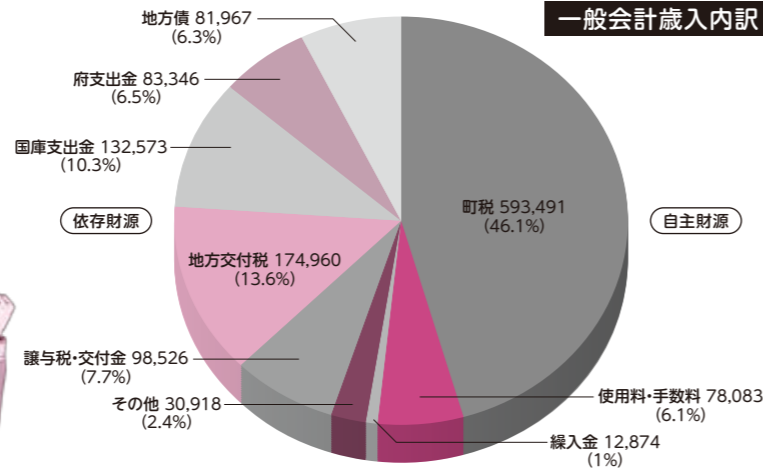
まちの決算状況（一般会計）	P1~2
町民一人あたりでみる決算	P3~4
まちの決算状況（特別会計）	P5~6
令和元年度に実施した主なまちのしごと	P7~13
まちの基金（貯金）と債務（借金）	P14
各種指標による財政状況の分析	P15~16
統一的な基準による財務書類	P17~18



精華町の財政状況公表資料（決算篇）

歳入編

精華町に入ってきたお金の内訳を見てみましょう♪



(単位：万円) △はマイナス

【歳入】	①本年度決算額	②前年度決算額	差引(①-②)	対前年比
町税	593,491	562,216	31,275	105.6%
使用料・手数料	78,083	78,749	△ 666	99.2%
繰入金	12,874	34,795	△ 21,921	37%
その他	30,918	66,012	△ 35,094	46.8%
譲与税・交付金	98,526	90,119	8,407	109.3%
地方交付税	174,960	170,896	4,064	102.4%
国庫支出金	132,573	148,368	△ 15,795	89.4%
府支出金	83,346	78,398	4,948	106.3%
地方債	81,967	140,101	△ 58,134	58.5%
合計	1,286,738	1,369,654	△ 82,916	93.9%

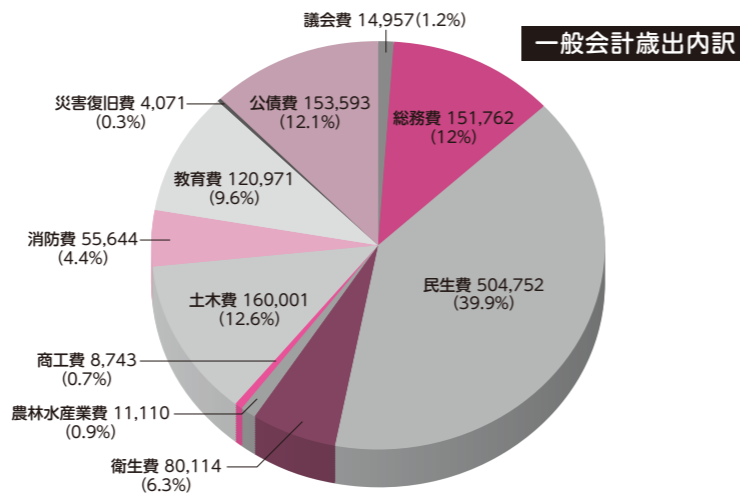
◇各種基金からの繰入金が前年度との比較で、約2億1,900万円の減、対前年比37%となっています。これは、事業の完了によるクリーンセンター建設基金や都市計画事業基金の取りくずしが減少したことによるものです。

◇その他収入が前年度との比較で、約3億5,000万円の減、対前年比46.8%となっています。これは、前年度からの繰越金の減少などによるものです。

◇地方債による収入が前年度との比較で、約5億8,100万円の減、対前年比58.5%となっています。これは、前年度に行った学校施設調整備事業(4億5,600万円)や新公共交通システム導入事業(1億3,400万円)などの大型事業に対する借入が減少したことが要因です。

歳出編

どんな目的にお金は使われたのかな??



(単位：万円) △はマイナス

【歳出】	①本年度決算額	②前年度決算額	差引(①-②)	対前年比
議会費	14,957	13,714	1,244	109.1%
総務費	151,762	146,978	4,784	103.3%
民生費	504,752	473,829	30,923	106.5%
衛生費	80,114	85,499	△ 5,385	93.7%
農林水産業費	11,110	10,653	457	104.3%
商工費	8,743	11,407	△ 2,664	76.6%
土木費	160,001	178,179	△ 18,178	89.8%
消防費	55,644	72,360	△ 16,716	76.9%
教育費	120,971	182,228	△ 61,257	66.4%
災害復旧費	4,071	8,352	△ 4,281	48.7%
公債費	153,593	158,723	△ 5,130	96.8%
合計	1,265,718	1,341,922	△ 76,203	94.3%

◇民生費が前年度との比較で、約3億円の増、対前年比106.5%となっています。大きな要因としては、自立支援給付事業の利用者数の増加や福祉センター長寿寿命化事業に関する経費の増加、後期高齢者医療制度負担経費の増加などが挙げられます。

◇土木費が前年度との比較で、約1億8,000万円の減、対前年比89.8%となっています。これは公共下水道事業特別会計への繰出金の減少や、前年度に実施した大型事業(新公共交通システム導入事業)の皆減によるものです。

◇教育費が前年度との比較で、約6億1,000万円の減、対前年比66.4%となっています。これは、前年度に実施した大型事業(学校施設調整備事業)の皆減によるものです。

まちの決算状況(一般会計)

令和元年度一般会計の決算状況

歳入	128億6,738万円	歳入歳出差引額	2億1,020万円
歳出	126億5,718万円	翌年へ繰り越すべき財源	1億1,237万円
		実質収支額	9,783万円
		単年度収支	△1億1,243万円

依然厳しい財政状況を表しています



令和元年度の一般会計決算は、歳入128億6,738万円、歳出が126億5,718万円となり、平成30年度の決算と比較すると、歳入が8億2,916万円の減少(前年度比△6.1%)、歳出が7億6,203万円(前年度比△5.7%)の減少となりました。

これに令和2年度へ繰り越した事業に必要な財源1億1,237万円を除いた実質収支額は、9,783万円の黒字となりました。一方で、当該年度の実質的な収入と支出の差額を意味する単年度収支は、1億1,243万円の赤字となっています。

用語を確認♪

「実質収支」とは・・・

何らかの事情で未完成のため翌年度に繰り越すべき工事代金など、翌年度以後に支出する必要がある金額分を除いて、当年度の歳入から歳出を引いた差額のことです。

例えば、1か月の家計でいえば、来月払いのクレジットの引き落とし予定額を除いた差額のことです。

「単年度収支」とは・・・

当該年度の決算による実質収支から前年度の実質収支を差引いた金額をいいます。

当該年度の実質収支は前年度以前からの収支が累積されているため、前年度の実質収支の黒字が含まれています。

前年度の実質収支が黒字であった場合、その黒字額のうち基金への編入額を除いた額を繰越金として当該年度の歳入に編入されるため、

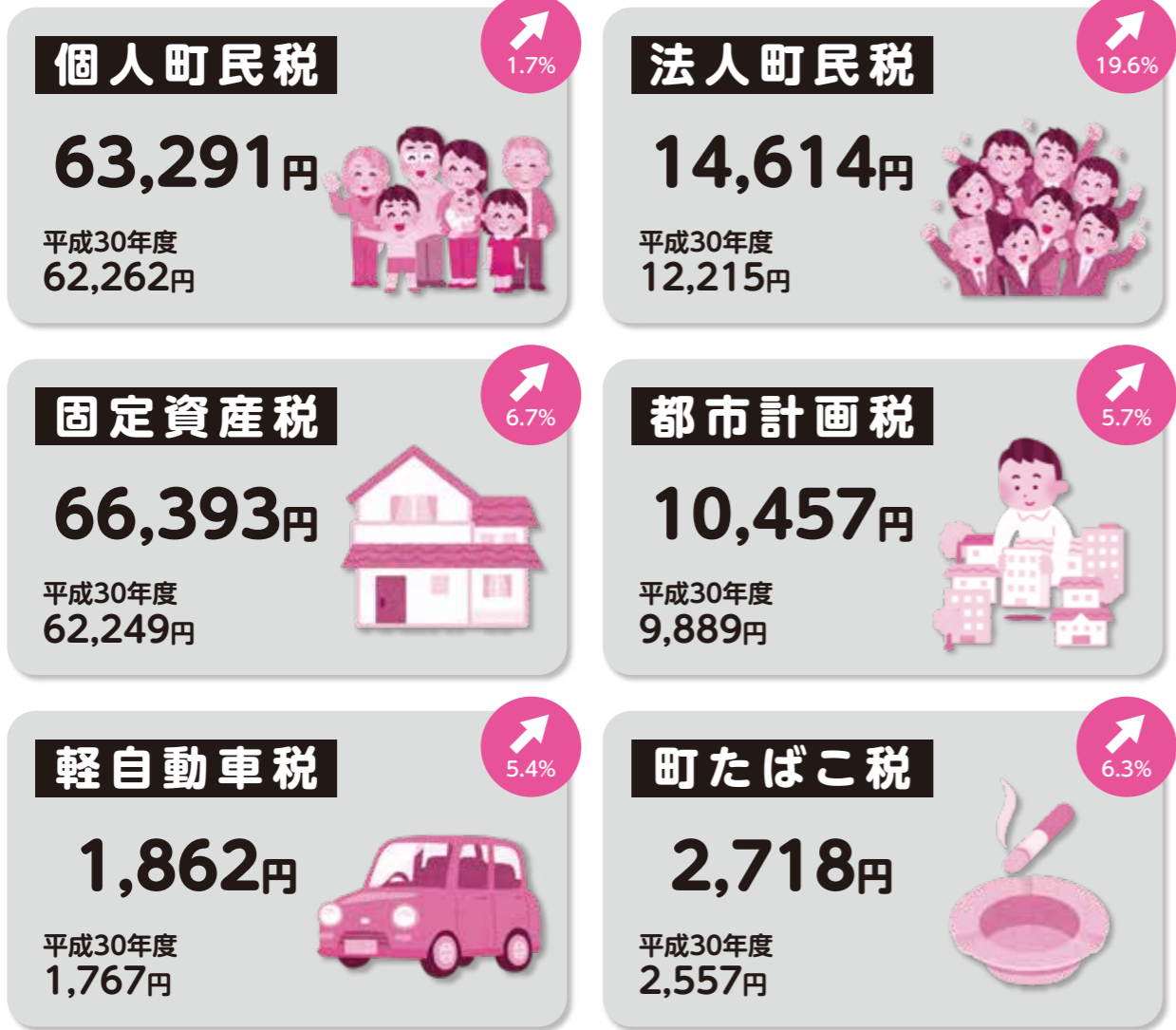
当該年度の実質収支はその編入額見合い分増加しています。

したがってこの増加要因分を当該年度の実質収支から差し引きすることで、当該年度だけの収支を現した額を単年度収支といいます。

「実質収支」と「単年度収支」ってなんだろう??



町民一人あたりでみる町税負担の状況



↑ プラス 0.0% ↓ マイナス 0.0% 増減率(%) $\left(\frac{\text{令和元年度決算}}{\text{平成30年度決算}} \times 100 \right) - 100$

都市計画税は、こんな事業に使われています！

区分	金額(万円)	左記の財源内訳					
		都市計画税	国・府支出金	地方債	その他	基金繰入金	一般財源
都市計画事業費							
粕田駅東特定土地区画整理事業	190	190	0	0	0	0	0
都市計画事業充当地方債償還金	13,615	13,615	0	0	0	0	0
公共下水道事業(一般会計からの繰出金)	70,461	25,144	0	0	0	0	45,317
合計	84,266	38,949	0	0	0	0	45,317

都市計画税は、都市計画事業や土地区画整理事業を行う市町村で、その事業に必要な費用に充てるための目的税として課税されるものです。都市計画税が充てられる主な事業は、都市計画道路などの交通施設や、公園、広場などの公共空地、下水道などの施設整備などです。なお、都市計画税が充当される事業には、他にも町税や、国・府の支出金、地方債なども財源として充てられます。

町民一人あたりでみる決算

町民一人あたりでみる歳出状況



町民一人あたりでみる決算

町民一人あたりでみる決算

まちの決算状況(特別会計)

特別会計とは、特定の目的のための会計で、収支を明確にするため、一般会計とは分けて、その収入・支出を経理しているものです。精華町には6つの特別会計があります。それでは各特別会計の決算状況を見ていきましょう。

※各会計ごとに会計規模が違うため、グラフの目盛りの単位はそれぞれ異なります。

特別会計の決算状況はどうなっているのかな？

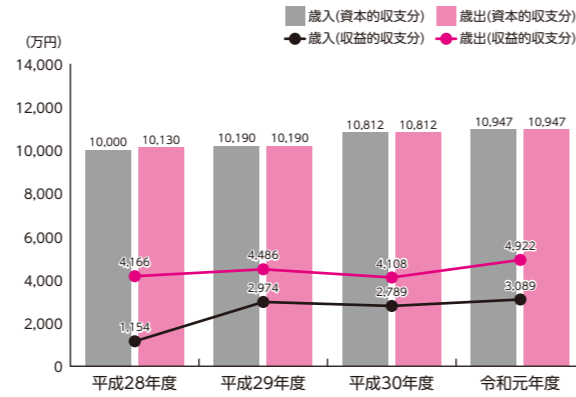


◇国民健康保険事業特別会計

◇国民健康保険病院事業特別会計

地方公営企業法に基づく公営企業として設置している特別会計で、精華町国民健康保険病院の運営にかかる収支を、企業会計方式で経理しています。ただし、指定管理者が病院運営の収支を直接経理しているため、町の経理は管理経費の分だけです。

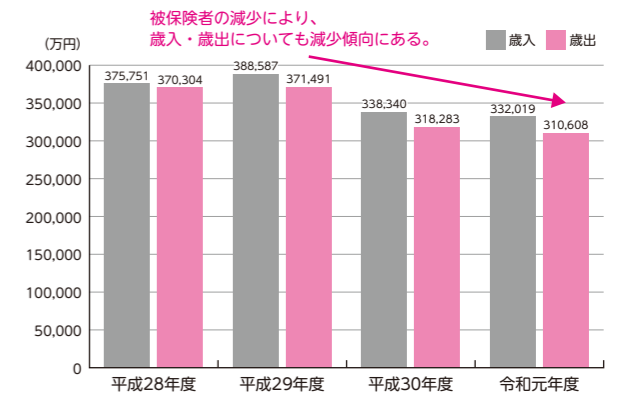
令和元年度決算では、収益的収支の差し引きは1,833万円の純損失です。



◇国民健康保険事業特別会計

国民健康保険法に基づく特別会計で、精華町を保険者とする国民健康保険の運営(被保険者に対する国民健康保険税の収納や保険給付費など)にかかる収支を、一般会計と同じく公会計方式で経理しています。

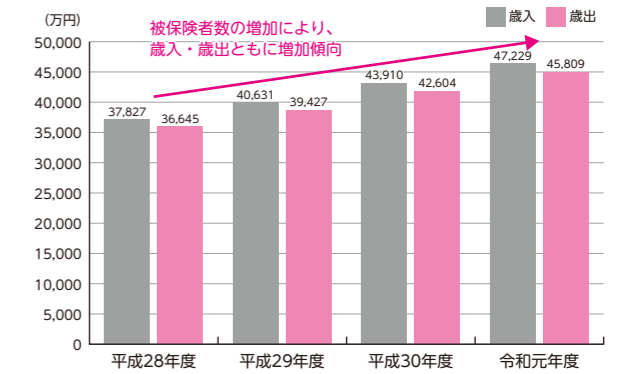
令和元年度の実質単年度収支は黒字となりましたが、1人当たりの費用額は単年度では横ばいであるものの、増加要因が多く、今後も厳しい状況が続く見通しです。



◇後期高齢者医療特別会計

高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特別会計で、京都府後期高齢者医療広域連合を保険者とする後期高齢者医療制度の被保険者にかかる保険料を徴収し広域連合へ納付する費用経費を、一般会計と同じく公会計方式で経理しています。

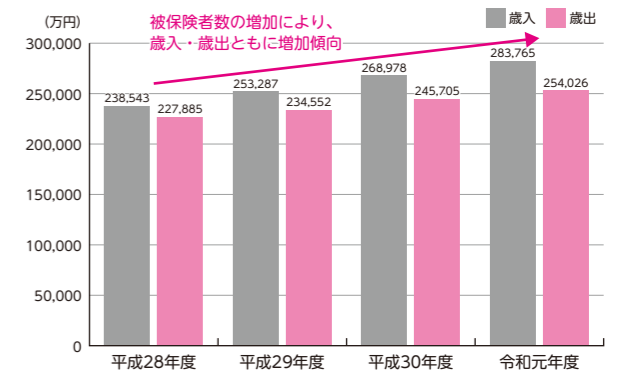
令和元年度決算の歳入歳出差引の黒字は、大部分が京都府後期高齢者医療広域連合へ納付する保険料納付金です。



◇介護保険事業特別会計

介護保険法に基づく特別会計で、精華町を保険者とする介護保険の運営(被保険者に対する保険料の収納や介護給付費など)にかかる収支を、一般会計と同じく公会計方式で経理しています。

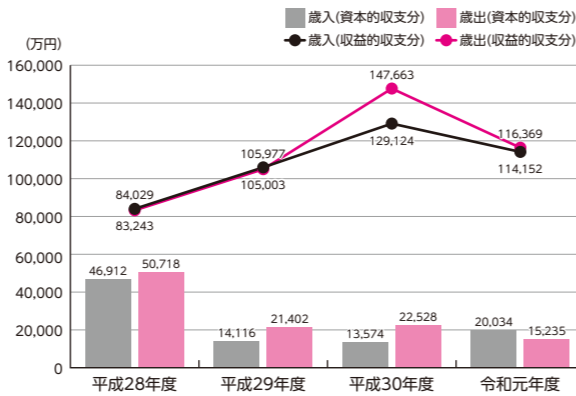
令和元年度決算は、前年度と比較すると歳入が5.5%増、歳出が3.4%増となりました。保険給付費に係る歳出総額は、23億7,101万円、対前年度比較では、1億4,446万円、6.5%の増加でした。



◇水道事業特別会計

地方公営企業法に基づく公営企業として設置している特別会計で、水道の給水にかかる施設整備や管理などの運営にかかる収支を、企業会計方式で経理しています。

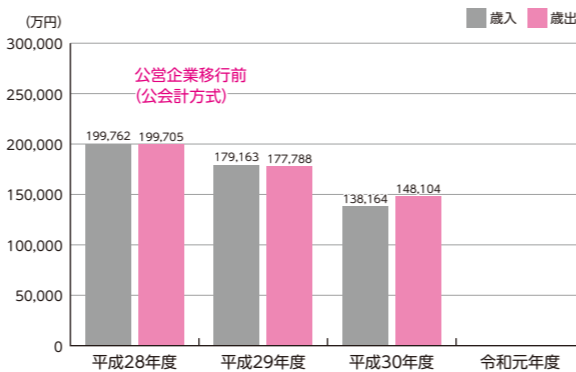
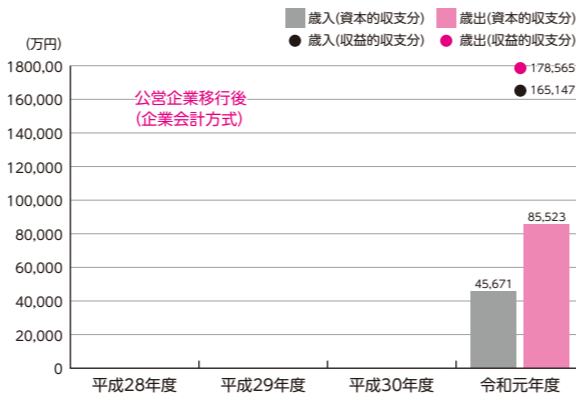
令和元年度税込決算では、収益的収支の差し引きは2,217万円の赤字で、資本的収支の差し引きは4,799万円の黒字となりました。



◇公共下水道事業特別会計

地方公営企業法に基づく公営企業(令和元年度より)として設置している特別会計で、汚水の処理や雨水の排水施設の整備と管理などの公共下水道事業の運営にかかる収支を、令和元年度から企業会計方式で経理しています。

令和元年度税込決算では、収益的収支の差し引きは1億3,418万円の赤字で、資本的収支の差し引きは3億9,852万円の赤字となりました。



令和元年度に実施した主なまちのしごと

1章 活力あふれ魅力ある学研都市のまちづくり

京都アカデミック産業創造事業

3,300万円

○「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの推進やサブカルチャーに関するクリエイター支援等、「精華町地域創生戦略」に基づくシティプロモーションを行いました。

○学研都市ブランドを活かした観光資源の利活用や新たな特産品の開発、販路検討といった産業振興・観光振興業務に取り組みました。



今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

2,555万円

○観光の魅力発信として、夏秋いちごの初回収穫に合わせたスイーツフェア等のPRイベントの開催や、「京都精華cafe」のブース出展、いちご狩り&アイシングクッキー体験などを実施しました。



インクルーシブソサエティ(共生で賑わう社会)推進事業

250万円

○障害者スポーツが、障害のある人もない人も、また、年齢や性別を問わず交流できるスポーツとなることを目指し、ポッチャのparaスリートを招き、ポッチャの実演や体験会を実施しました。

○障害のある人が農業との連携により社会参加の促進を図るため、「せいか祭り」でブースを設け、生産した野菜の販売や取組の紹介、啓発を行いました。



学研都市建設推進・活性化事業

961万円

○学研都市の活性化を目的としたイベントの開催や学研都市建設に係る要望活動を行いました。

・京都スマートシティエキスポへの出展
・京阪奈新線新祝園ルート整備促進に係る活動
・ツアー・オブ・ジャパンの開催
・スポーツ観光聖地づくり(自転車休憩所の整備等)



企業誘致促進事業

3,872万円

○学研都市にふさわしい研究施設や企業の誘致及びアフターフォローを行い、雇用機会の創出や地域経済の活性化を図りました。

・京都府などと連携を図りながら、企業誘致に努めた結果、令和元年度末時点で43社が立地操業し、今後2社の立地が決定しました。

・ハローワーク京都田辺と協力し、学研都市就職面接会を実施し、地元の雇用機会拡大を図りました。



せいか祭り事業

700万円

○「地域の活性化」や「住民の交流」を目的に、けいはんな記念公園・けいはんなプラザで「せいか祭り」を開催し、約40,000人の方が来場されました。



観光推進事業

408万円

○町の魅力的な観光コンテンツを町内外に広く周知し、観光誘客を図りました。

・町バス「ふれあい号」におけるバスラッピングの実施(新規)
・観光マップ「京都Seika いいね!なびマップ」の作成
・観光情報を一元的に整理した観光ポータルサイトの活用



コミュニティバス実証運行事業

3,200万円

○高齢者や交通弱者の生活手段として、公益性の高い施設を結び、地域交流の促進を図り、福祉を増進するコミュニティバス(くるりんバス)の実証運行を行いました。令和元年度は、72,084名の利用がありました。



道路維持管理事業

1億9,242万円

○道路利用者の安全確保を図り環境保全との良好な状態を保つため、道路や東西連絡通路等の修繕工事を実施しました。

・東西連絡通路計画修繕工事
通路内部の塗装、エレベーター補修、照明器具LED化
・舗装計画修繕
光台環状線、北福八間1号線
・道路修繕工事
舗装修繕、防護柵設置、車止め設置等
など



道路照明LED化事業

2,132万円

○消費電力量やCO2の削減など環境負荷の軽減や維持管理コストの削減を図るため、道路照明灯のLED化を実施しました。

・精華台道路照明灯LED化工事 82基(164灯)
・植田西線道路照明LED化工事 9基(18灯)



2章 安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり

自立支援給付事業

8億6,937万円

○障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスの提供やサービス利用料などの軽減措置などを行いました。



地域生活事業

5,819万円

○地域で暮らす在宅の障害児者の日常生活や社会参加活動を支援することにより、地域での暮らしと社会参加の推進を図るため、各種サービス事業を実施しました。

・成年後見支援センター 相談件数1,741件
・障害者相談支援事業 相談件数1,989件
・障害児者ふれあいのつどい開催 参加人数528名
・障害者日常生活用具給付・移動支援・一時支援等
など



排水路整備事業

8,117万円

○祝園西一丁目排水対策工事
ゲリラ豪雨などによる急激な水位上昇に対応するため、排水バイパスルートの整備を行いました。
○新川排水計画設計
抜本的な排水対策として、新川の用排水分離に向けた設計業務を行いました。
○滝ノ鼻地区排水路整備工事
排水能力の向上を図るため、年次的に進めてきた排水バイパスルートの整備が令和元年度で完了しました。



交通安全施設整備事業

1,191万円

○交通安全対策として、カーブミラーや交通安全灯などの設置を行いました。
○祝園第3自転車駐輪場用地の一部を地権者に返還することとなったため、代替用地の確保を行うとともに、拡張整備工事等を実施しました。



2章 安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり

地域支え合い体制づくり事業

1,236万円

○「地域共生社会」の実現を目指しコミュニティソーシャルワーカーである絆コーディネーターを中心に、講演会や研修会を実施しました。
○ひとり親家庭の子どもを対象に学習支援や子ども食堂を実施したほか、共同生活ホールのフリースペースを活用したイベントなど、子どもや障害のある人の居場所づくりに取り組みました。



健康づくり推進事業

520万円

○6つの健康づくりプロジェクト(いきいき健康ウォーク・さあ!これから塾・いちご体操プロジェクト・せいか食育劇団もぐもぐ・わくわく健康里山の会・軽やか同窓会)の活動を支援し、住民参画による健康づくり活動の推進を図りました。
○せいか365健康ポイント事業を実施し、健康づくりのインセンティブ付与の仕組みづくりに取り組みました。



3章 未来をひらく文化と環境のまちづくり

科学のまちの子どもたちプロジェクト

262万円

○未来を担う「子どもたち」に焦点をあて、「けいはんな学研都市」の中心地である精華町の特徴を活かした多様な学びの機会を子どもたちへ提供しました。
・科学体験フェスティバル、学研施設訪問、出前授業など。



新規 学校施設長寿命化計画策定

600万円

○学校施設の適切な維持管理のため、5小学校、3中学校の長寿命化計画を策定しました。今後は、この計画をもとに計画的な修繕を行っていきます。(新規)



健康総合拠点施設整備事業

211万円

○健康総合拠点施設及び防災総合保健センター建設に向け、施設の候補地や機能構成、規模、活用イメージ等を整理した「健康総合拠点施設整備基本計画」を作成しました。



精華町敬老会事業

624万円

○長寿を祝福し、多年の労に報いるため、町内の75歳以上の方を対象に「敬老会」を実施しました。令和元年度は718名の方が参加され、合唱や吹奏楽、漫才を楽しまれました。



新規 中学校パソコン整備

1,155万円

○町内3中学校のパソコンのタブレット型を追加しました。持ち運び可能なタブレット型にすることにより、パソコン教室だけでなく、各教室、体育館や屋外などの活動でも使用することが可能となりました。(新規)



要・準要保護児童生徒の就学援助

2,306万円

○経済的な理由で就学が困難と認められる児童生徒の保護者や特別学級に在籍する児童生徒の保護者に対して、必要な経済的援助を行いました。



地域福祉センター長寿命化事業

5,270万円

○開館から25年以上を経過した建物・設備等の老朽化が進行し、経年劣化により更新時期が到来している「地域福祉センターかしのき苑」について、今後の運用を考慮し、照明器具LED化工事や中央監視設備の改修設計を実施しました。



新規 消防車両更新事業

4,124万円

○耐用年数を経過した「救急車2号」、「査察車」、「消防団車両」の3台の更新を行い、救急活動、火災予防活動、地域防災力を強化することができました。(新規)



4章 自立を目指した協働のまちづくり

新規 マイナンバーカード専用
証明書自動交付機の設置
347万円

○精華町住民サービスコーナー（桜が丘地区内）の証明書発行サービス維持のため、耐用年数が超過している証明書等自動交付機の撤去に伴い、マイナンバーカード専用証明書自動交付機を新たに設置しました。（新規）



新規 役場庁舎長寿命化事業
550万円

○平成13年1月の竣工から19年が経過し老朽化した役場庁舎の長寿命化を図るため、庁舎6階議会棟の放送・AV設備を更新するための実施設計を行いました。（新規）



新規 来庁者用臨時駐車場の拡張
233万円

○イベント時などに手狭となっていた来庁者用駐車場を確保するため、役場庁舎西側駐車場の拡張工事をするための測量及び設計を行いました。（新規）



3章 未来をひらく文化と環境のまちづくり

成人式の開催
126万円

○まちづくりの担い手となる新成人の新しい門出を祝福するとともに、大人として社会的責任を担ったことへの自覚を促す機会として「成人式」を開催しました。



子ども祭りの開催
200万円

○せいか祭りと同日に第17回「精華町子ども祭り」を開催し、子どもたちに体験を通じた学習の場や地域住民とふれあう機会を提供しました。



児童館空調整備
1,298万円

○次世代を担う子どもたちの人権尊重と居場所づくりの拠点である児童館の空調整備を昨年度に引き続き実施し、館内全ての空調整備が完了しました。



幼稚園就園奨励事業
9,551万円

○幼稚園教育の振興を図るため、子どもを私立幼稚園に就園させている町内在住の保護者に対して、入園料及び保育料の一部を所得に応じて補助しました。
○10月から幼児教育・保育の無償化が実施されたことにより、町内在住で私立幼稚園に就園する児童の保育料を給付しました。（新規）



国際交流推進事業
452万円

○せいかグローバルネットとの共催により、各種国際理解事業や多文化共生に係る事業の実施や国際感覚豊かな人づくりのために海外体験補助を実施しました。



大谷処理場大規模改修負担金
1,917万円

○し尿及び浄化槽汚泥の処理を行っている大谷処理場の長寿命化を図るため、令和元年度から2年間かけ大規模改修工事を行う予定としており、令和元年度は実施設計及び機械設備工事の機械制作等を実施しました。



一緒にうれしい
On Your Side

みなさまのすぐとりに京都中央信用金庫がいます。

① 京都中央信用金庫
精華支店

JR祝園駅西300m
☎ 0774(93)1321
☎ 0774(93)1124

なが——い、おつきあい。

将来のために今からはじめる 大切な財産を大切な方へ

資産形成 信託・相続

京都銀行はさまざまなシーンで
皆様を応援します！

飾らない銀行
京都銀行

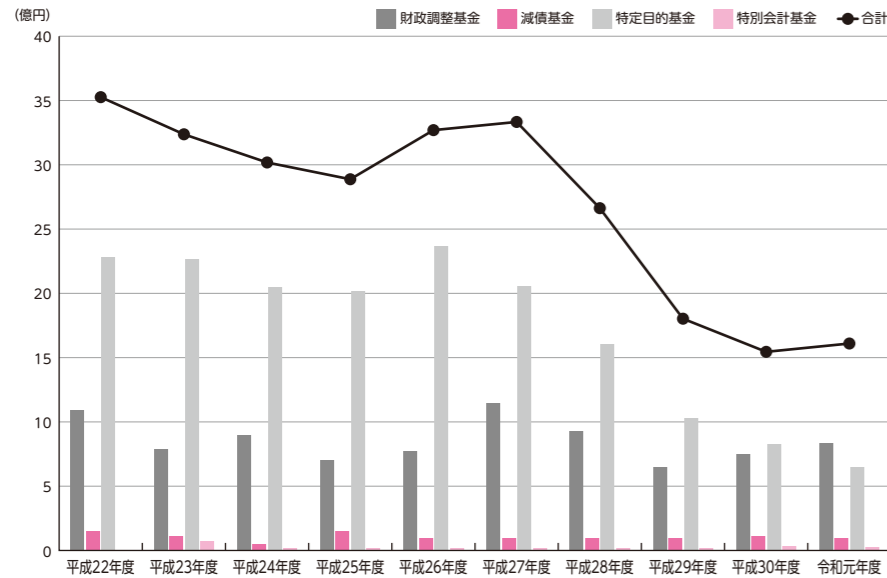
ナント・なら・ずっと！

NANTO 南都銀行

精華支店
☎0774 (94) 2580

まちの基金(貯金)と債務(借金)

基金(貯金)について

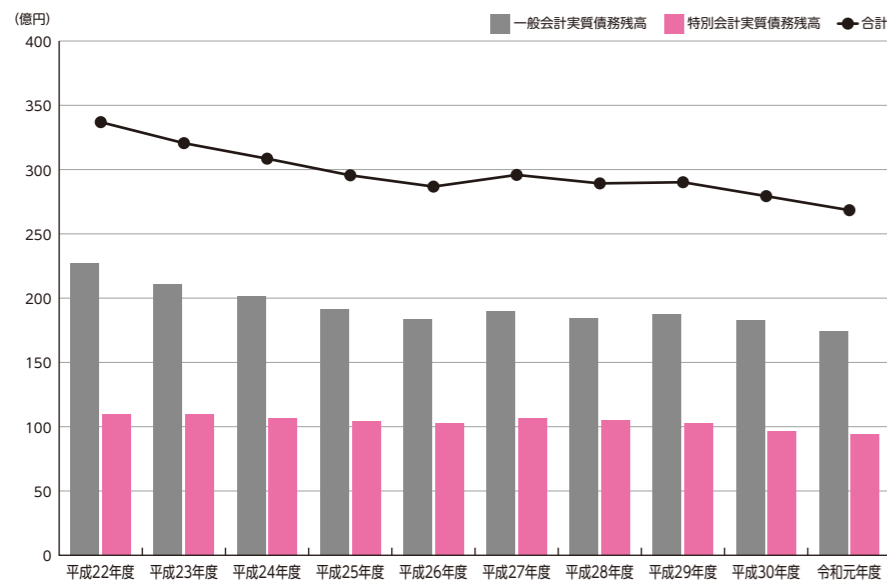


- 財政調整基金**
年度間の財源不足に対応するための貯金です。
- 減債基金**
地方公共団体が借りたお金(借金)を返すために必要な資金を積み立てるための貯金です。
- 特定目的基金**
特定の目的を計画的に実施するために必要な資金を積み立てるための貯金です。精華町には学校建設基金、宅地開発事業に関する諸施設整備基金などがあります。

※特別会計基金…特別会計で保有する基金残高(国民健康保険事業会計、介護保険事業会計)。

令和元年度の一般会計の基金残高は、総額約15億8,000万円となっています。その内訳は、財政調整基金が8億3,400万円、減債基金1億円、特定目的基金6億4,600万円です。前年度と比較すると総額で4.3%の増加となりました。現在の基金残高は決して十分とは言えないことから、更なる基金残高の確保に努め、安定的な財政基盤の確立が必要となっています。

債務(借金)について



実質債務残高
将来返さないといけないお金がどれくらいあるかを示すもので、「地方債残高」と「翌年度以降支出予定債務負担行為残高」の合計額です。

令和元年度末での町全体の地方債は247億9,543万円です。また、地方債のほかに将来の支払いを約束した債務負担行為の残高が20億4,497万円、これらを合わせた町全体の実質債務残高は268億4,040万円となり、前年度と比較して10億9,317万円減少しました。将来世代へ過度な負担を残さないようにするため、今後も計画的な債務減少に努めます。

精華町内には、祝園弾薬庫が所在するため、防衛省から補助金が交付されています。
令和元年度はこの補助金を活用して下記の事業を実施しました。

防衛施設周辺まちづくり計画事業補助金を活用して実施しました

交付対象経費	【交付金】
防災食育センター(給食センター)等基本計画・実施計画の策定	1,947万円【1,752万円】

特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用して実施しました

交付対象経費	【交付金】
道路照明のLED化	1,858万円【1,382万円】
救急車2号購入	2,694万円【2,000万円】
消防団車両購入	695万円【200万円】
3中学校パソコン購入	1,155万円【800万円】
学校図書館司書配置	162万円【150万円】
スクールカウンセラー配置	245万円【200万円】
特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金積立(要配慮児童への学級支援員配置事業に使用)	1,300万円【1,300万円】



救急車



消防団車両



中学校パソコン購入

医療法人 社団 医聖会
学研都市病院
TEL.0774-98-2123
〒619-0238 京都府相楽郡精華町精華台7丁目4-1

整形外科/消化器内科/循環器内科/総合内科/呼吸器内科
神経内科/外科/脳神経外科/皮膚科/小児科/眼科
泌尿器科/放射線科/リハビリテーション科/麻酔科
脊椎・脊髄センター/健診センター

診療時間 AM9:00~12:00 ※救急告示病院(随時受付)
休診日 日・祝日/年末年始(12/31~1/3)

FUJI XEROX

富士ゼロックスシステムサービスは
IT化する自治体様を強力サポート。
さらなる住民サービス向上を目指します。

富士ゼロックスシステムサービス株式会社
公共事業本部 関西支店
TEL 06-6225-0390 9:00-17:30

令和元年度に実施した主なまちのしごと

まちの基金(貯金)と債務(借金)

令和元年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について

平成19年6月に公布された地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）に基づく、精華町の健全化判断比率についてお知らせします。

精華町の令和元年度決算に基づく、①実質赤字比率、②連結実質赤字比率、③実質公債費比率、④将来負担比率の4つの指標は以下の通りです。

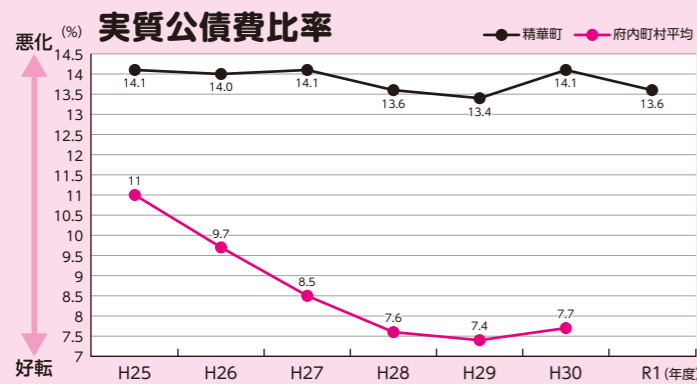
実質赤字比率と連結実質赤字比率はいずれも算定されませんでした。また、実質公債費比率と将来負担比率については、それぞれ早期健全化基準を下回っています。

健全化判断比率	令和元年度	平成30年度	早期健全化基準 (イエローライン)	財政再生基準 (レッドライン)	財政悪化
			健全団体	財政再生団体	
①実質赤字比率	-	-	13.68%	20.0%	財政健全 ← → 財政悪化
②連結実質赤字比率	-	-	18.68%	30.0%	
③実質公債費比率	13.6	14.1	25.0%	35.0%	
④将来負担比率	99.1	115.6	350.0%		

※算定されていない項目は「-」で記載しています。

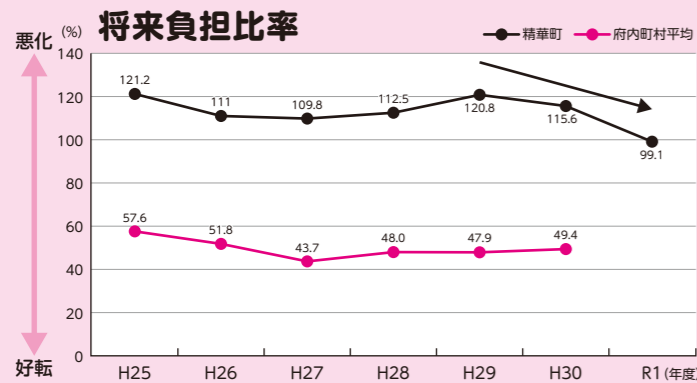
財政健全 ← → 財政悪化

実質赤字比率・・・一般会計等の赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化したものです。
連結実質赤字比率・・・すべての会計を合算し、精華町全体の赤字額が標準的な収入に対してどれくらいの割合になるのかを指標化したものです。



実質公債費比率は、令和元年度は前年度と比較して、数値が0.5ポイント好転しましたが、府内町村平均よりやや高い値で推移しています。

実質公債費比率とは、借入金（地方債）などの返済額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すものです。

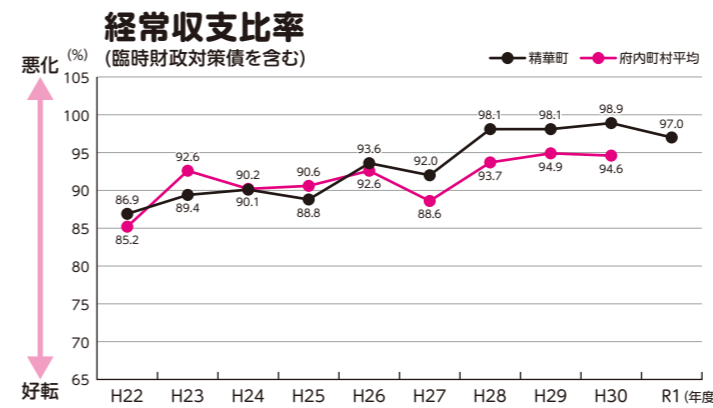


地方債残高や債務負担行為に基づく今後支出予定額の減少により、直近2年間の将来負担比率は好転傾向となっています。

将来負担比率とは、一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来、財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。

各種指標による財政状況の分析

地方自治体の財政状況を分析するには、決算額だけではなく、さまざまな指標から検証する必要があります。
例えば、収支のバランスや財政のゆとり、将来の負担の大きさなどは、いずれもとても重要な情報です。
精華町の主な財政指標について推移を見てみましょう。

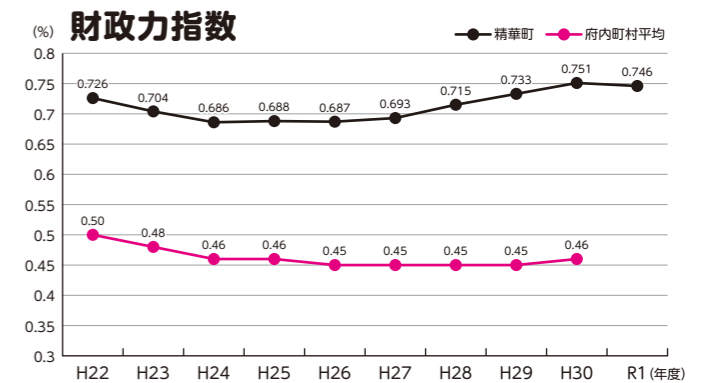


直近3年間については97%～98%台と高止まりした状態で推移しており、財源を活用できる自由度が低いことがわかります。これは社会状況を反映して地方税収入等に対し、経常経費である医療や介護などの社会保障費が増加していることによるものです。

経常収支比率は財政の硬直性を示す基準です。家計では衣食住など生活する上でなくてはならない出費が、収入に対してどれくらいの割合を持つかを示す指標になります。この比率が低いほど、財源を活用できる自由度が高まることになります。

精華町は府内町村平均よりは財政力指数は高くなっていますが、財政的自立を表す「1」には達しておらず、財源に余裕がない状態であることがわかります。

財政力指数とは、財源の余裕度を示す指数で、財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い団体ということになります。財政力指数が1を超える団体は、普通地方交付税の交付を受けない不交付団体となります。



解説

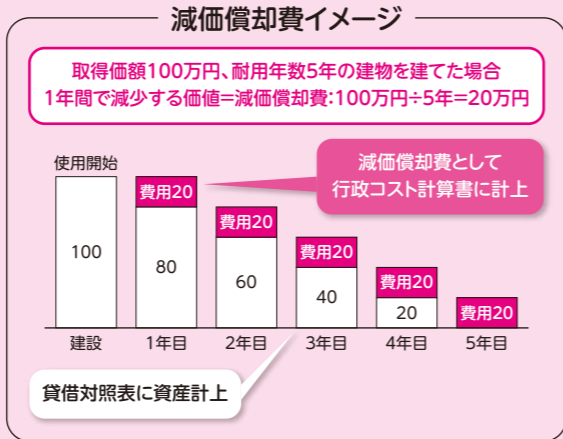
●貸借対照表

貸借対照表とは、精華町が住民サービスを提供するためにどれだけ資産を保有しているか、その資産がどのような財源で賄われているかを対照表示した財務書類です。
 資産の部には精華町が保有する資産が計上されています。資産のうち、事業用資産には役場庁舎・学校、福祉施設、体育施設などの町が保有する施設の資産額が計上されています。また、インフラ資産には、道路や公園などの資産額が計上されています。
 負債については、主に将来の世代が負担していただくことになる債務などが計上されています。
 負債のうち、退職手当引当金は、年度末に全職員が普通退職した場合の退職手当支給見込額です。
 また、賞与等引当金は、翌年度に支払うことが予定される期末勤労手当のうち、当年度の負担相当額です。
 発生主義の考え方では、これら歳入歳出決算書では見えない資産・負債についても把握できます。

●行政コスト計算書

行政コスト計算書とは、行政サービスを行うために、1年間にどこにどれだけの費用がかかっているのか、使用料や手数料などの収益はどのくらいあるのかを見る財務書類です。
 現金主義会計では、現金の出入りしか記録しませんので、例えば、建物を建てた場合、工事費を支払った年度のみ、支出が記録されます。これに対し、行政コスト計算書（発生主義会計）では、工事費を支払った年度に全額を費用計上するのではなく、取得した建物の耐用年数にわたって各年度に費用を配分する「減価償却費」が計上されます。（右図参照）

賞与等引当金を貸借対照表に計上する際には、現金の支出はありませんが、当年度に発生した費用を認識して、引当金繰入額として、費用計上します。
 行政コスト計算書では、これら現金の支出を伴わないコスト情報を明らかにできます。



●純資産変動計算書

純資産変動計算書では、行政コスト計算書における使用料・手数料等の経常収益で賄いきれなかった純行政コストがどのように賄われるかを見ることができます。
 令和元年度末の純資産変動額は、1億9千5百万円のマイナスとなり、これは、過去から蓄積された資産（純資産）を取り崩しているということになります。

●資金収支計算書

資金収支計算書は、現金主義による官庁会計の現金収支を3つの活動区分（A,B,C）に分けて表したものです。
 (A)業務活動収支では、日常的な行政サービスに対するお金の出入りが、(B)投資活動収支では、道路、学校などの工事や基金の積立取崩にかかったお金の出入りが、(C)財務活動収支では、地方債の返済や借入のお金の出入りがわかります。

財務書類からわかる指標について

有形固定資産減価償却率...55.2%

【有形固定資産原価償却率】=減価償却累計額／(有形固定資産取得額(土地は除く)+減価償却累計額)×100
 地方公共団体の所有する資産の老朽化の進み具合を把握することができます。
 精華町は、有形固定資産全体の減価償却率が55.2%で、すでに現在保有する建物や道路などの半分以上が帳簿上の価値を失っており、今後の更新時期に留意する必要があります。（ただし、帳簿上の価値が失われても施設の使用ができなくなるわけではありません。）

債務償還可能年数...13.4年

【債務償還可能年数】=(将来負担額-充当可能基金)／(資金収支計算書の業務収入+臨時財政対策債発行可能額-業務支出)
 実質的な債務（主に地方債）を定期的に確保できる資金（行政サービス提供に関する収支である業務活動収支の赤字額）で返済した場合に、何年で返済できるかを表す指標で、債務返済能力を見ることができます。精華町は、13.4年で、債務償還可能年数が高い傾向であるため、債務返済能力は低いと考えられます。今後の債務残高の抑制に努めるとともに、債務を返済するための原資を経常的な業務活動からいかに確保するかが重要な視点となります。

統一的な基準による財務書類

令和元年度一般会計財務書類の概要

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
固定資産	81,777	固定負債	17,167
有形固定資産	80,903	地方債	13,925
事業用資産	34,653	退職手当引当金他	3,242
インフラ資産	46,063	流動負債	2,023
物品	187	1年内償還予定地方債	1,450
無形固定資産	169	賞与等引当金他	573
投資その他の資産	705	負債合計	19,190
基金	650	純資産の部	
その他	55	純資産合計	63,780
流動資産	1,193		
現金預金	235		
基金	935		
その他	23		
資産合計	82,970	負債及び純資産合計	82,970

資金収支計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
業務活動収支(A)	1,351
業務支出 (人件費・物件費・社会保障給付など)	10,257
業務収入 (税収・国府補助金・使用料及び手数料など)	11,608
投資活動収支(B)	△ 426
投資活動支出 (公共施設等整備費・基金積立金など)	743
投資活動収入 (国府補助金・基金取崩・資産売却収入など)	317
財務活動収支(C)	△ 992
財務活動支出 (地方債償還支出など)	1,812
財務活動収入 (地方債発行収入など)	820
本年度資金収支額(A+B+C)①	△ 67
前年度末資金残高②	277
本年度末歳計外現金残高③	25
本年度末資金残高(①+②+③)	235

行政コスト計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	12,018
業務費用	7,302
人件費	2,718
職員給与費	2,567
賞与等引当金繰入額	8
その他	143
物件費等	4,380
物件費	2,541
維持補修費	89
減価償却費	1,750
その他の業務費用	204
支払利息	159
徴収不能引当金繰入額	3
その他	42
移転費用	4,716
補助金等	1,479
社会保障給付	1,812
他会計への繰入金他	1,424
経常収益	861
使用料及び手数料	781
その他	80
純経常行政コスト	△11,158
臨時損失	2
臨時利益	77
純行政コスト	△11,083

純資産変動計算書

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
前年度末純資産残高	63,975
純行政コスト(△)	△ 11,083
財源	10,888
税収等	8,695
国府等補助金	2,193
無償所管換等	-
本年度末純資産変動額	△ 195
本年度末純資産残高	63,780

※単位未満の四捨五入により、各数値の合計額等一致していない場合があります。

令和元年度 『決算のあらまし(まちの家計簿)』の 発行にあたって

今年も、『決算のあらまし』（令和元年度版）を発行することとなりました。

本町の財政状況などをわかりやすくお伝えするために、『予算のあらまし（まちの羅針盤）』とあわせて毎年継続して取り組んでいるものですが、今後もわかりやすくお伝えするための工夫をこらしながら本誌の作成に取り組んでまいります。

さて、令和元年度については前町政をしっかりと引き継ぎ、近年多発する災害から住民の皆さまの生命財産を守るため、祝園西一丁目及び滝ノ鼻地区の浸水被害防止を目的とした排水路整備を行い、「雨に強いまちづくり」を推進してまいりました。

しかしながら、精華町の財政状況は、本誌をご覧くださいただければお分かりのとおり、決して順風満帆な状況とは言えません。財政の健全性や弾力性を表す「経常収支比率」は幾分は良化をしたものの、依然として高止まりの状態で推移しており、今後、社会保障費の増加や新型コロナウイルス感染症拡大による税収等への影響も見込まれることから、財政見通しは厳しいものといわざるを得ません。

そのような状況のなか、令和2年度は前年度に引き続き、祝園西一丁目浸水被害防止のための新川用排水分離工事や農業用ため池防災対策による「雨に強いまちづくり」を推進するほか、新型コロナウイルス感染症拡大への対策として、地域経済及び住民生活の支援、「新しい生活様式」等への対応に係る環境整備等を行ってまいります。

最後になりますが、世界的に先行きが不透明な厳しい情勢ではありますが、これからも住民の皆さまと課題を共有しながら、「精華町の未来のために」まちづくりに全力で取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年10月

精華町長 杉浦正省

精華町ふるさと納税
特設サイトを開設しました!!

<https://furusato-seika.jp/>

※精華町にお住まいの方は、総務省の基準により、返礼品をお渡しすることができません。



～みなさまのあたたかい応援をお待ちしております～



発行/令和2年10月 印刷/株式会社 大円